

夏風邪とインフルエンザ 広報げろ 2009.7

夏風邪とインフルエンザ

◎風邪の原因はウイルス

風邪症状を引き起こす主な原因はウイルスです。冬の低温、乾燥に強いのがインフルエンザウイルスであり、夏の高湿多湿に強いのが夏風邪の原因ウイルスです。熱、のどの痛み、結膜炎を引き起こすアデノウイルスはプール熱などの原因ともなります。春や秋に多くしゃみ、鼻水、鼻づまりなど鼻かぜ症状を引き起こす原因の半数はライノウイルスといわれ多くの型があります。夏から秋にかけて子どもに多く発生し、高熱とのどの痛みをきたすヘルパンギーナはコクサッキーA型ウイルスなどが原因です。夏風邪の中でもエンテロウイルスは発熱、下痢、嘔吐などの胃腸症状を引き起こします。

◎ウイルスの大きさ

風邪などの病気を引き起こす病原微生物には、扁桃腺炎などを引き起こす溶血性連鎖球菌などの細菌、気管支炎、肺炎などを引き起こすクラミジア、ツツガムシの原因のリケッチア、インフルエンザなどの原因のウイルスがあります。細菌は千分の一 mm 程度、インフルエンザウイルスは一万分の一 mm、クラミジアやリケッチアはその中間の大きさです。

◎ 風邪の感染経路

咳やくしゃみからの飛沫を吸い込んだり、ウイルスを含んだ飛沫が乾燥して空気中に漂うのを吸い込んだり、ドアノブや手すりに付着した飛沫が手を介して経口感染する経路があります。

◎ 風邪の予防

感染経路を考えれば風邪の予防法は手洗い、マスク着用、うがいです。風邪の多くは経口感染なので、手洗いは最も重要です。マスクはウイルスが体に入るのを完全に防ぐことはできませんが、のどの乾燥を防ぎ抵抗力を保つ働きがあります。何よりも他人に移すのを予防する効果があります。水によるうがいは効果的ですが、消毒薬によるうがいはかえってのどの粘膜を痛めたり防御機能を狂わせたりして逆効果を招くこともあります。十分な休養と栄養はいうまでもありません。

◎ 風邪の治療

インフルエンザにはタミフルやリレンザなどの治療薬がありますが、そのほかのウイルスに対する治療薬はありません。鎮痛解熱剤や咳止めなど対症療法が行われ、細菌感染などによる合併症に対しては抗生物質なども投与されます。

◎ 新型インフルエンザの入院治療

この秋以降感染力毒性の強いインフルエンザの流行が懸念されますが、下呂市においてはこれらの患者の入院できる病院はありません。対応できる施設、マンパワーがないのです。全国的に見てもインフルエンザの患者数は感染症病床をはるかに上回るものと考えられます。現在のところ自己防衛と、在宅療養が止むおえない対策と考えられます。重症の感染者が一時的にせよ入院できるためにも施設の整備が望まれます。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦